

4段階評価 4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

【教育目標】1 知徳体の調和のとれた人材の育成を目指す。2 校訓を具現化し、21世紀を担う人材の育成を目指す。											
重点目標	評価項目	計画(P)		実践(D)		評価(C)		改善(A)		学校関係者評価	
		評価指標		方策・手立て		学校自己評価	総合	組織の考察・分析及び改善策等		評価	評価コメント
生徒一人一人の学力を最大限に伸ばし、進路実現を図る。	基礎・基本の定着と学力向上	①教師が授業力を磨く。	全職員が県教育委員会による重点支援校訪問において、研究授業を2回以上行う。また、学習内容に応じTICTを活用した教育活動を適宜実施する。	3		【基礎・基本の定着と学力向上】 ①重点支援校訪問において、全職員が2回の研究授業を行った。また、教職員同士が日常的に情報交換を行い、ICTを活用した授業を計画的に実施することができた。 ②家庭学習時間調査を定期的に行い指導に生かしたことで、全学年とも過当たりの宅習時間の数値目標を概ね達成することができた。今後は、数値目標を達成していない生徒への個別指導にさらに充実させる。 ③総合的な学習の時間を中心に、全職員で指導に当たったことで、生徒全員が年度末の自然科学探究発表会で充実した発表を行うことができた。また、科学の甲子園ジュニア全国大会での4位入賞や自然科学に関するコンクール等での県上位レベルでの入賞など、全国・県レベルでの表彰を受けた。 ③読書活動において、清泉会を中心に思索の時間の充実に努めた。教職員も支援しながら日々の取組を定着させている。 【進路指導の充実】 ①総合的な学習の時間の「キャリア探究」を通じて、医療講話及び県庁・医療体験活動(1・2年)、企業病院探訪(2年)を関係団体等の協力のもと実施し、コロナ前と同等レベルの活動を実施することができた。また、職場体験学習の代替として各企業と他県の中学校をオンラインで結んだキャリア学習を2年生で行うことができた。 ②③個別指導や補充学習のためのSETの時間を多く確保することができた。また、中学校職員で諸検査等の結果の分析を定期的に行い、授業改善や個別指導につなげることができた。	3.3	○附属中生は、そのまま理数科に進学することになり、高校受験というものがないので、生徒が気を緩めないようにはならない。 ○全項目に対する、更なる充実が図られることを期待します。 ○自分でしっかり行える生徒と、なかなか取り組みない生徒で学力の格差が出てしまうことがあります。が、そういう学校であると自分で認識できているかが気になります。			
	②学習習慣を確立させる。	各教科において家庭学習の在り方を適宜指導し、学期1回行う宅習時間調査において、過当たりの宅習時間を1、2年1080分以上、3年1200分以上を目指す。									
進路指導の充実		①キャリア教育を充実させる。	総合的な学習の時間(キャリア探究)において、新型コロナウイルス感染症の感染状況を見極めながら、企業病院探訪等、キャリア教育に係る教育活動を各学年で年1回以上実施する。	3		【規範意識の向上と生徒指導】 ①週1回以上の情報交換を行い、学習や生徒指導に係る共通理解を図ることができた。また、ケース会議を適時実施することができた。 ②担当職員の指導のもと、清泉会を中心に挨拶の励行に係る取組を更に充実させたことで、気持ちのよい挨拶を自分から進んで行う生徒が増えてきた。 ③清泉会(生徒会)や集会等で、生徒が企画・運営する活動等の機会を増やしたことで、主体的な生徒が増えてきた。また、「服のチカラプロジェクト」という活動に取り組んだことで、清泉会執行部以外の生徒も積極的に活動することができた。 ④清掃徹底週間を設定し取組を充実させたことで、時間いっぱい清掃に取り組む生徒が増えた。 【道徳・人権教育・食育・健康安全教育的の推進】 ①学級担任による週1回の道徳の授業を計画的に実施することができた。他の教育活動でも、道徳に関する指導を計画的に実施することができた。 ①全学年を対象とした情報モラル学習を7月に1回実施することができた。 ①いじめに関するアンケートを年間10回実施することができた。また、夏季休業に全生徒対象の三者面談を、冬季休業中に希望者対象の面談を実施することができた。 ②3月に「弁当の日」を実施し、それぞれの生徒の実態に応じた取組を実施することができた。	3.2	○個人面談の機会をより多く実施していただきたいと思います。 ○できる学生が多いので、これからも頑張ってください。			
		②学力に応じた個別指導、補充指導を充実させる。	○各教科の個別指導、補充指導の充実を図るため、SETを月1回以上実施する。 ○中学校企画会において生徒の学力に係る情報交換を月1回以上行い、全職員での共通理解・共通実践へとつなげる。								
人権感覚を養い、豊かな心を育む。	規範意識の向上と生徒指導	①職員の共通理解と共通実践を図る。	中学校企画会において生徒指導に係る情報交換を月1回以上行い、全職員での共通理解・共通実践へとつなげる。	3	3						
	②挨拶を励行し規律を守る、素直で爽やかな生徒を育てる。	生活清泉会が中心となって取り組む挨拶を推進する活動が充実するよう、指導・支援を行う。									
道徳・人権教育、食育・健康安全教育的の推進		③自主性・積極性のある生徒を育てる。	様々な教育活動において、生徒が主体的に活動する場を意図的に設定し、状況に応じた指導・支援を行う。	3							
		④環境美化意識の高揚を図る。	○清掃徹底週間を学期1回設定し、指導の徹底を図る。								
文武連道の推進		①道徳教育、人権教育、特別支援教育、教育相談を充実させる。	○道徳の時間を年間35時間確保する。 ○SNSによる人権問題等を未然に防止するため、全学年を対象とした情報モラル学習を年1回以上実施する。 ○いじめに関するアンケートで生徒の状況を把握し、教育相談を実施する時間を確保する。	3							
		②食育と健康安全教育的を推進する。	○食育の推進を目的として、「弁当の日」を年1回実施する。 ○健康安全教育的について、交通安全・生活安全・災害安全に係る教育活動を年1回以上実施する。								
文武連道の推進		①「文武連道」の「文」は勉強、「武」の部活動の他、生徒会活動やボランティア活動等も含めて考える。	勉強と部活動等の両立ができるように、生徒が毎日提出する生活の記録や宅習時間調査を活用し、生徒個々に応じた指導・支援を適宜行う。	3							
		②学校行事へ積極的に参加させる。	中学校単独行事、中高合同行事において、生徒が主体的に活動できるよう、場の設定及び指導・支援の充実を図る。								
広報活動の充実		③生徒会活動を活性化させる。	清泉会集会等の集会活動や各係の常時活動など、生徒が主体的に活動を行うよう、指導・支援の充実を図る。	3							
		④部活動を充実させる。	部活動の意義等を理解させるオリエンテーションを実施し、生徒の85%以上の部活動加入を目指す。								
広報活動の充実		①オープンスクールの工夫・改善を図る。	学校説明会を年2回実施し、事後アンケートにおいて「満足」との回答の割合を90%以上を目指す。	3							
		②ホームページ、広報誌、パンフレット等を充実させる。	○ホームページを週2回以上更新し、地域・保護者への情報提供に努める。 ○学校案内パンフレットについて、紙媒体とともにデジタル版を作成し、ホームページに年間を通して掲載する。								
広報活動の充実		③積極的に小学校を訪問しPR活動を行う。	北諸県地区の全小学校及び西諸県地区の希望する学校を対象とした小学校訪問を7～8月の間に各1回実施する。	3							